

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成30年5月
豊田市（愛知県）

全体総括

○計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年0月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は、平成20年に第1期中心市街地活性化基本計画を策定し、中心市街地の活性化に向けた取組みを推進してきたが、リーマンショックによる景気後退によって、大型店の売上げ、宿泊施設の利用者数が減少するなど、大きな影響があった。それに伴い、歩行者通行量も大きく減少し、平成22年には若干の回復はしたものの、第1期計画の歩行者通行量の目標値は未達成となった。このような状況の中、第1期で伸び悩んだ歩行者通行量を改善するべく、第2期計画を策定し、平成25年3月に認定を受けた。

第2期計画では、商業施設・高齢者施設・住宅施設の3棟から成る、豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業が順調に進められ、平成29年11月に再開発ビル「KiTARA」がオープンした。この再開発事業の完了をもって、昭和60年から進められてきた豊田市駅周辺の再開発構想の完成という節目を迎えた。

大規模な基盤整備が終わり、まちなかは一新された雰囲気が感じられ、歩行者通行量も平日・休日ともに増加の傾向が見られるが、昼間の賑わいや滞留に大きな変化は感じられない。また、周辺市町での大型商業施設の新設・リニューアルなど、本市中心市街地を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあるため、本計画事業を含み、過去から蓄積してきたまちの資源をいかに活用していくかが今後重要な課題となる。

第2期計画期間中においては、歩行者専用道路の一部を広場化し、日常的な休憩・飲食スペースの設置やイベント等の広場利用を可能とするなど、公共的空間の積極的な活用や、多様な主体の事業参画民も見られた。今後も官民が連携してエリアのマネジメントを強化し、まちの賑わいや楽しみの発信や、エリアの価値を向上させる取組みを行っていくとともに、平成31年に予定されているラグビーワールドカップの開催等、大規模イベントを見据えて、今まで以上に「本市の顔」として魅力的な中心市街地になることが求められている。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】（各年度内の1月1日が基準日）

（中心市街地区域内）	平成24年度（計画期間開始前年度）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（計画最終年度）
人口	12,809人	12,820人	12,897人	12,970人	13,027人	13,284人
人口増減数	△54人	11人	77人	73人	57人	257人
社会増減数	31人	57人	57人	41人	86人	154人
転入者数	856人	864人	852人	922人	904人	1,003人

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定期と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定期より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2. における選択肢の理由）

計画していた事業は、概ね遅延なく実施でき、38 事業中 37 事業に着手することができた（5 事業完了、32 事業実施中）。また、活性化を測る目標指標については、その全てにおいて目標値を達成できたことから、概ね順調に進捗・完了したといえる。

一方で、本市の小売吸引力は人口が同規模程度の近隣都市と比較して最も弱かった中（岡崎市 1.00、豊橋市 0.90、一宮市 0.90、本市 0.83）、大型商業施設のオープンが周辺で相次いでおり（平成 28 年度 1 店舗、平成 29 年度 2 店舗）、中心市街地を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いている。また、目標指標である歩行者通行量は、平日・休日ともに大幅に増加したものの、通勤・通学による通過交通量の増加によるところが大きく、昼間に限定すると賑わいに課題を残しており、通行量も伸び悩んでいる。また、豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業における再開発ビル開業の効果も大きく発現していない。

ただし、このような状況においても、竹生線沿線商業魅力化推進事業、西桜町地区商業まちづくり推進事業といった民間主体の事業で着実な動きがあった。築100年の蔵と古民家を活用し、カフェやチャレンジショップなど、まちの交流の場となる複合的な機能を持ったコミュニティ施設「MAMATOCO（ママトコ）」の開業や、長年空き家となっていた民家をリノベーションまちづくりの手法を用いて改修し、カフェやベーカリーなどが入居した施設「CONTENTS nishimachi（コンテンツニシマチ）」の開業など、エリアの魅力向上や集客増加が図られた。また、ペデストリアンデッキや公園をはじめとした公共的空間においても、パブリックビューイングやマルシェの開催等での活用が行われ、新たなまちの風景として定着しつつある。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定期と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定期より悪化）

まちなかの公共空地活用事業についてはイベントも定着し賑わいを見せている。第2期計画の目標指標である「平日・休日歩行者通行量・居住人口」は目標値を上回り、商業活動が活発であったと評価する。駅前インフォメーションセンター「THE CONTAINER N6」、おもてなし施設である「レストえきまえ」の開業も公共空地、空き店舗活用に貢献している。豊田市駅前通り北地区再開発ビル（KiTARA）のオープンを軸に今後の中心市街地の活性化が期待できるなか、中心市街地活性化基本計画の推進組織であるTCCMが一般社団法人化し、都市再生推進法人の指定を受けたことにより、中心市街地活性化協議会と都心環境計画推進会議など様々な組織と連携し、新たにスタートした第3期計画の目標指標を達成し、中心市街地の活性化が図されることを期待する。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

『平成28年度市民意識調査』

・調査期間

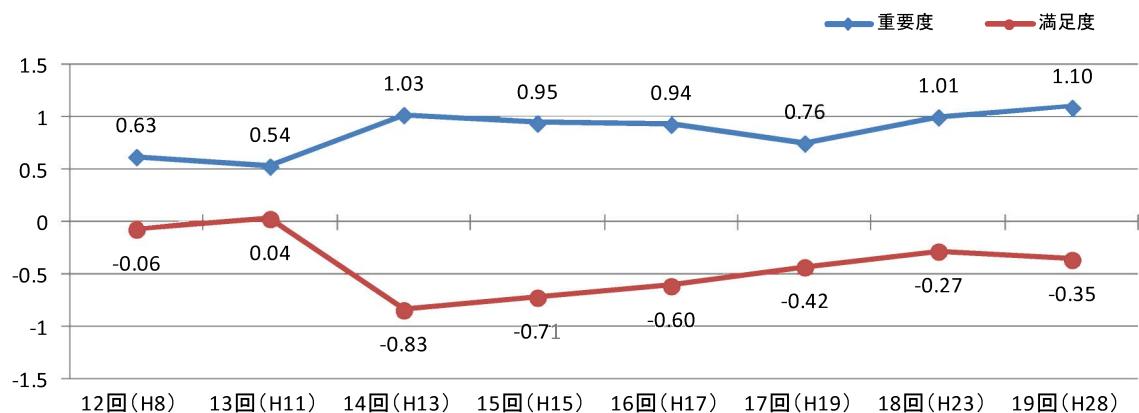
平成28年6月30日～7月15日

・調査方法

郵送による調査票の配布・回収

・調査対象者・サンプル数

市内在住3か月以上で満18歳以上の市民6,500人（無作為抽出）のうち、4,182件を回収（回収率64.3%）



重要度は、中心市街地活性化に関する施策について、「力を入れてほしい」～「力を入れる必要がない」の5段階のうち、中間の「今までよい」を0としてポイント化したもの。

満足度は、中心市街地の現状に満足かどうかについて「満足している」～「不満」の5段階のうち、中間の「普通」を0としてポイント化したもの。

中心市街地の重要度・満足度の時系列変化を見ると、平成12年の豊田そごう、平成13年の豊田サティの撤退時期を契機に大きく変化している。

第2期計画期間中では、満足度については大きく変わっていない（微減）、期待値を示す重要度は高まっている。このことから、市民意識として、まちの様子はあまり変化がなく、期待するほどの活性化に至っていないと読み取ることができる。

6. 今後の取組

第1期、第2期計画で整備した都市基盤を活かすために、第3期豊田市中心市街地活性化基本計画（平成30年4月～平成35年3月）を着実に推進し、広場等の公共的空間においてソフト事業を展開するなど、新たな賑わいの創出を図る。

また、ラグビーワールドカップ等、今後の世界的なイベント開催に対応するために、サイン・情報発信機能といったまちなかの案内や、大型商業施設のトイレや駐車場内の設備など、都市機能の充実を図る整備も継続的に実施する。

今後も効果を検証していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルを継続する。



(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
平日歩行者通行量の増加	平日歩行者通行量	72,230 人／日 (H23)	73,820 人／日 (H29)	83,673 人／日	H30.3	A
休日歩行者通行量の増加	休日歩行者通行量	63,094 人／日 (H23)	65,970 人／日 (H29)	72,195 人／日	H30.3	A
居住人口の増加	居住人口	12,715 人 (H23)	13,140 人 (H29)	13,398 人	H30.3	A

※居住人口は、毎年計測している 10 月時点では目標未達成 (13,086 人)

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

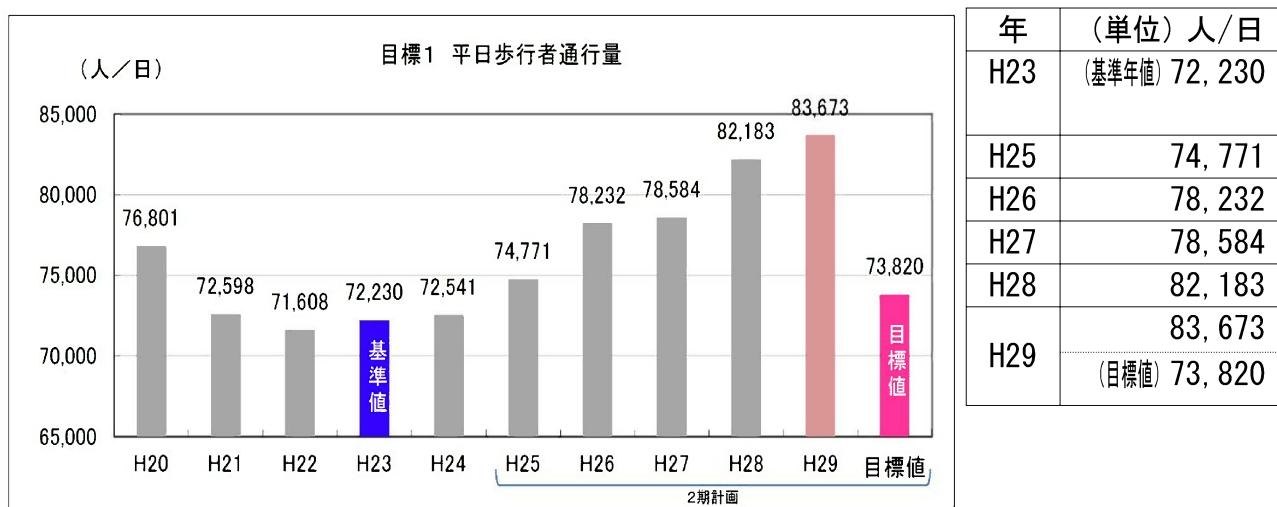
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「平日歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P52～P66 参照

●調査結果の推移



※調査方法：豊田市中心市街地歩行者自動計測装置により機械的に測定

※調査月：1年を通して（5時から24時）

※調査主体：豊田市

※調査対象：歩行者

2. 目標達成の状況【A】

目標指標である平日歩行者通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定通り完了した。豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業では、期待通りの集客がなかったものの、民間主体の事業である竹生線沿線商業魅力化推進事業、西桜町地区商業まちづくり推進事業では、期待通りの効果があった。当市基幹産業の好業績に支えられた面（通勤交通量）もあるが、結果的に目標値を達成したため、達成状況はAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- ① 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（アミューズメント施設整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成23年度～平成30年度
事業開始・完了 時期	平成23年度～平成30年度【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値)550人/日 増加 (最新値)323人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来 なかつた）理由	シネマコンプレックスの来館者数が、当初の見込みより少なかつたため。 (想定値739人/日、最新値434人/日)
計画終了後の状 況（事業効果）	施設新築工事が完了し、3,200m ² (約1,100席)のシネマコンプレックスが整備された。
事業の今後につ いて	さらなる来場者の増加に向け、施設運営事業者と連携し、シネマコンプレックスの利用促進を図る。

②. 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（居住棟整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成 23 年度～平成 30 年度
事業開始・完了 時期	平成 23 年度～平成 30 年度 【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値)661 人/日 増加 (最新値)594 人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来 なかつた）理由	再開発ビル居住施設の入居者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値 425 人、最新値 382 人)
計画終了後の状 況（事業効果）	施設新築工事が完了し、13,700 m ² (161 戸)の居住施設が整備された。
事業の今後につ いて	再開発事業としての居住施設整備は完了しているが、継続して中心市街地における居住機能の整備を図る。

③. 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（福祉施設整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金 平成 23 年度～平成 29 年度
事業開始・完了 時期	平成 23 年度～平成 30 年度 【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値)144 人/日 増加 (最新値)122 人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来 なかつた）理由	再開発ビル福祉施設の従業者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値 100 人、最新値 86 人)
計画終了後の状 況（事業効果）	施設新築工事が完了し、約 7,100 m ² (特別養護老人ホーム 90 床、介護付き有料老人ホーム 40 床等)の高齢者福祉施設が整備された。
事業の今後につ いて	再開発事業としての高齢者福祉施設整備は完了しており、今後は施設の適切な運用を図る。

④. まちなか賑わい・回遊性向上事業（実施主体：中心市街地まちなか宣传教育会議）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業 平成 25 年度
事業開始・完了 時期	平成 25 年度～平成 29 年度 【実施中】
事業概要	地域商業者、公共施設、メディア関係者等で構成する「中心市街地まちなか宣传教育会議」が情報発信、集客イベント等を合同で実施するものであり、まちの賑わい創出及び商業活性化を図る。

目標値・最新値	(目標値)122人/日 増加 (最新値) 64人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかつた)理由	シネマコンプレックスの来館者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値 739人/日、最新値 434人/日)
計画終了後の状況(事業効果)	美術館やシネマコンプレックス等と連携して、来場者に飲食店等のサービスを付与する「まちなかサポート一店」の取組みにより、中心市街地への来街促進を図った。
事業の今後について	今後も同じ方法で継続的に取り組む。

⑤. 竹生線沿線商業魅力化推進事業、西桜町地区商業まちづくり推進事業（実施主体：商業・サービス事業者）

支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業 平成25年度～平成26年度
事業開始・完了時期	平成25年度～平成29年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して魅力ある店舗を誘致するものであり、まちの賑わい創出と商業活性化を図る。
目標値・最新値	(目標値)100人/日 増加 (最新値)158人/日 増加
達成状況	目標達成
達成した(出来なかつた)理由	新規開業した店舗の集客数が、当初の見込みより多かったため。 (想定値100人、最新値158人)
計画終了後の状況(事業効果)	築100年の蔵と古民家を活用したまちなかコミュニティ施設の開業や、隣接する西町地区でリノベーションまちづくりの手法を用いた店舗の開業により、エリアの活性化や集客増加が図られた。
事業の今後について	引き続き、再開発エリアの周辺地区の魅力向上を図る。

⑥. 低炭素社会モデル地区整備事業（実施主体：豊田市）

支援措置名及び支援期間	社会资本整備総合交付金(豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業と一体の効果促進事業) 平成23年度～平成32年度
事業開始・完了時期	平成23年度～平成32年度【実施中】
事業概要	スマートハウスの展示や先進的な環境技術のPRを行う施設であり、環境モデル都市として「低炭素の見える化」等の推進を図る。
目標値・最新値	(目標値)16人/日 増加 (最新値)16人/日 増加
達成状況	目標達成
達成した(出来なかつた)理由	低炭素モデル地区(とよたEcoful Town)の入場者が、当初の見込みとほぼ同数であったため。(想定値30,000人、最新値28,707人)
計画終了後の状況(事業効果)	施設の整備が完了し、平成29年度末時点での来場者を記録している。
事業の今後について	さらなる来場者の増加に向けて、平成30年度に施設のリニューアルを実施予定。

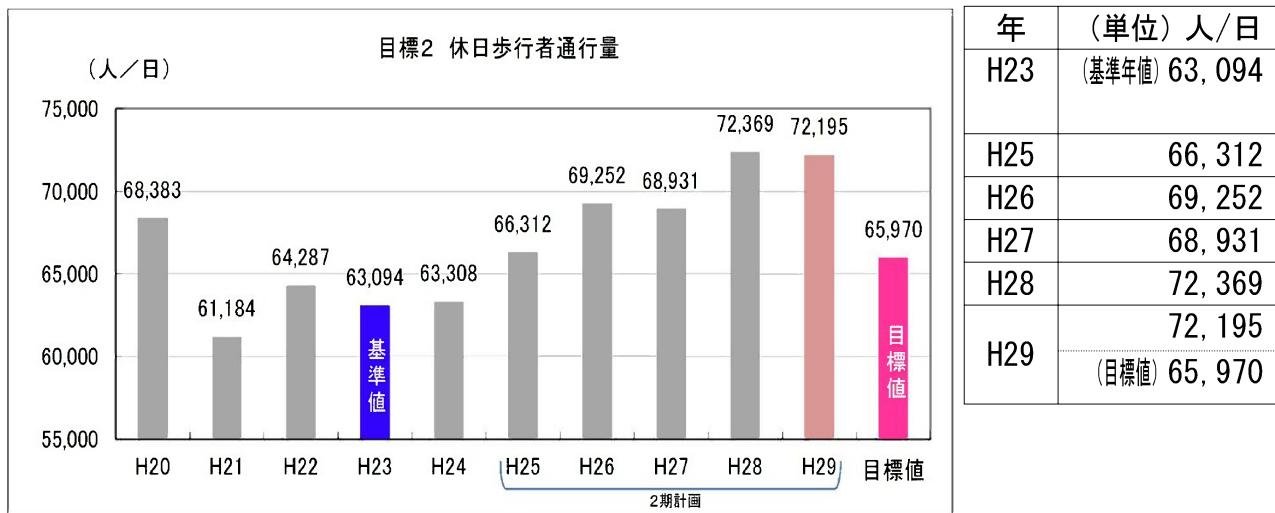
4. 今後について

平日歩行者通行量の目標を達成したものの、通勤・通学のような「通過」による部分が大きく、昼間の賑わいに課題を残したため、平日においても公共的空間の活用を充実させていくなど、官民が連携してソフ

ト事業を展開していく。第3期計画では、「歩行者通行量(昼間9~17時)」及び「フリーパーキング対象駐車場の総利用時間」を目標指標にし、まちなかの賑わいをより的確に測定する。
尚、第2期計画での方法でも、数値の測定を継続的に実施していく。

「休日歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画P52~P66参照

●調査結果の推移



※調査方法：豊田市中心市街地歩行者自動計測装置により機械的に測定

※調査月：1年を通して（5時から24時）

※調査主体：豊田市

※調査対象：歩行者

2. 目標達成の状況【A】

目標指標である休日歩行者通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定通り完了した。豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業では、期待通りの集客がなかったものの、民間主体の事業である竹生線沿線商業魅力化推進事業、西桜町地区商業まちづくり推進事業では、期待通りの効果があった。また、公共的空間を活用したイベントやマーケット等で来街促進が図られたこともあり、目標値を達成したため、達成状況はAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- ① 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（アミューズメント施設整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成23年度～平成30年度
事業開始・完了時期	平成23年度～平成30年度【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値)1,371人/日 増加 (最新値) 834人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	シネマコンプレックスの来館者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値1,842人/日、最新値1,120人/日)
計画終了後の状	施設新築工事が完了し、3,200m ² (約1,100席)のシネマコンプレックスが整

況（事業効果）	備された。
	さらなる来場者の増加に向け、施設運営事業者と連携し、シネマコンプレックスの利用促進を図る。
②. 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（居住棟整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）	
支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成 23 年度～平成 30 年度
事業開始・完了 時期	平成 23 年度～平成 30 年度【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値)661 人/日 増加 (最新値)594 人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来 なかった）理由	再開発ビル居住施設の入居者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値 425 人、最新値 382 人)
計画終了後の状 況（事業効果）	施設新築工事が完了し、13,700 m ² (161 戸)の居住施設が整備された。
事業の今後につ いて	再開発事業としての居住施設整備は完了しているが、継続して中心市街地における居住機能の整備を図る。
③. 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（福祉施設整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）	
支援措置名及び 支援期間	地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金 平成 23 年度～平成 29 年度
事業開始・完了 時期	平成 23 年度～平成 30 年度【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値)144 人/日 増加 (最新値)122 人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来 なかった）理由	再開発ビル福祉施設の従業者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値 100 人、最新値 86 人)
計画終了後の状 況（事業効果）	施設新築工事が完了し、約 7,100 m ² (特別養護老人ホーム 90 床、介護付き有料老人ホーム 40 床等)の高齢者福祉施設が整備された。
事業の今後につ いて	再開発事業としての高齢者福祉施設整備は完了しており、今後は施設の適切な運用を図る。
④. まちなか賑わい・回遊性向上事業（実施主体：中心市街地まちなか宣传教育会議）	
支援措置名及び 支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業 平成 25 年度
事業開始・完了 時期	平成 25 年度～平成 29 年度【実施中】
事業概要	地域商業者、公共施設、メディア関係者等で構成する「中心市街地ま

	「まちなか宣伝会議」が情報発信、集客イベント等を合同で実施するものであり、まちの賑わい創出及び商業活性化を図る。
目標値・最新値	(目標値)520人/日 増加 (最新値)429人/日 増加
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	シネマコンプレックスの来館者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値1,842人/日、最新値1,120人/日)
計画終了後の状況(事業効果)	公共的空間等でのイベント開催や、サッカー・ラグビーの試合日に飲食店と連携する「まちなかサポートー店」の取組みにより、滞留時間の増加・回遊性の向上につながった。
事業の今後について	今後も同じ方法で継続的に取り組む。

⑤. 竹生線沿線商業魅力化推進事業、西桜町地区商業まちづくり推進事業（実施主体：商業・サービス事業者）

支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業 平成25年度～平成26年度
事業開始・完了時期	平成25年度～平成29年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して魅力ある店舗を誘致するものであり、まちの賑わい創出と商業活性化を図る。
目標値・最新値	(目標値)100人/日 増加 (最新値)158人/日 増加
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	新規開業した店舗の集客数が、当初の見込みより多かったため。 (想定値100人、最新値158人)
計画終了後の状況(事業効果)	空き物件を活用した店舗の開業や、公共空間(公園)を活用した定期的なマーケットの開催により、魅力的な界隈が形成されつつあり、新たな賑わいが創出された。
事業の今後について	引き続き、再開発エリアの周辺地区の魅力向上を図る。

⑥. 低炭素社会モデル地区整備事業（実施主体：豊田市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業と一体の効果促進事業) 平成23年度～平成32年度
事業開始・完了時期	平成23年度～平成32年度【実施中】
事業概要	スマートハウスの展示や先進的な環境技術のPRを行う施設であり、環境モデル都市として「低炭素の見える化」等の推進を図る。
目標値・最新値	(目標値)16人/日 増加 (最新値)16人/日 増加
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	低炭素モデル地区(とよたEcoful Town)の入場者が、当初の見込みとほぼ同数であったため。(想定値30,000人、最新値28,707人)
計画終了後の状況(事業効果)	施設の整備が完了し、平成29年度末時点で、107の国と地域から236,630人の来場者を記録している。
事業の今後について	さらなる来場者の増加に向けて、平成30年度に施設のリニューアルを実施予定。

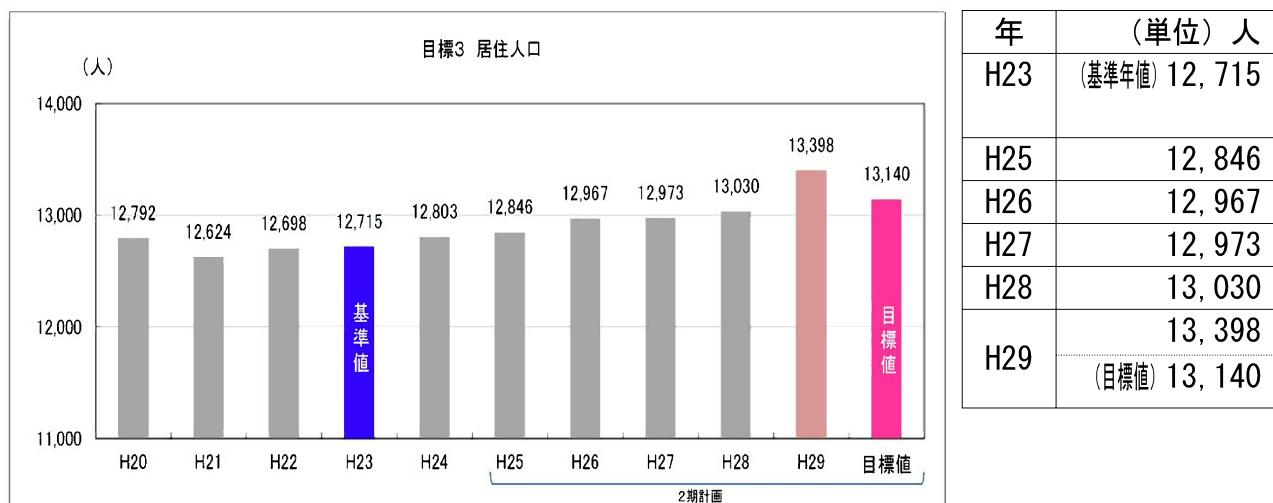
4. 今後について

平日歩行者通行量と同様、休日歩行者通行量についても目標を達成した。その要因として、ペデストリアンデッキでのイベント、桜城址公園でのマーケット等、公共的空間を活用した事業によって来街促進が図られたことが挙げられるため、第3期計画でも引き続き事業を継続し、「歩行者通行量(昼間9～17時)」及び「フリーパーキング対象駐車場の総利用時間」を目標指標として、まちなかの賑わいを測定する。

尚、第2期計画での方法でも、数値の測定を継続的に実施していく。

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P52～P66 参照

●調査結果の推移



※調査方法：住民基本台帳

※調査月：10月1日時点（※最終フォローアップは平成30年3月31日時点）

※調査主体：豊田市

※調査対象：中心市街地16町

2. 目標達成の状況【A】

目標指標である居住人口の増加に向けた各事業については、概ね予定通り完了した。

目標達成状況については、例年測定をしている10月時点では、整備が完了していなかったため、13,086人と目標値を下回ったが、その後事業が順調に進み、計画完了時点で目標達成したため、Aとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- ① 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（居住棟整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 平成23年度～平成30年度
事業開始・完了時期	平成23年度～平成30年度【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値)405人 増加 (最新値)380人 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	再開発ビル居住施設の入居者数が、当初の見込みより少なかったため。 (想定値405人、最新値380人)

計画終了後の状況（事業効果）	施設新築工事が完了し、13,700 m ² (161戸)の居住施設が整備された。
事業の今後について	再開発事業としての居住施設整備は完了しているが、継続して中心市街地における居住機能の整備を図る。

②. 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業（福祉施設整備）（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金 平成 23 年度～平成 29 年度
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 30 年度【実施中】
事業概要	商業施設、アミューズメント施設、高齢者福祉施設及び居住棟の整備が予定されている。スタジアムアベニューの形成に向けて実施してきた駅周辺再開発の一環であり、市街地の整備改善、都市機能の集約、まちなか居住の推進等を図る。
目標値・最新値	(目標値) 20 人 増加 (最新値) 2 人 増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	再開発ビル福祉施設内のサービス付高齢者向け住宅の入居者数が、当初の見込みより少なかったため。(想定値 20 人、最新値 2 人)
計画終了後の状況（事業効果）	施設新築工事が完了し、約 7,100 m ² (特別養護老人ホーム 90 床、介護付き有料老人ホーム 40 床等)の高齢者福祉施設が整備された。
事業の今後について	再開発事業としての高齢者福祉施設整備は完了しており、今後は施設の適切な運用を図る。

4. 今後について

居住人口は、主要事業である豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業が順調に進み、目標を達成した。

今後は、大規模な居住施設等の整備計画がないことから、第 3 期計画での目標指標として居住人口は設定しない。ただし、中心市街地の状況を測る上で重要な数値の一つであることから、今後も測定を継続的に実施していく。